

アメリカミシガン州における 包括的スクールガイダンス・カウンセリングプログラムの展開 —スクールカウンセラーの役割およびその養成との関連に注目して—

松本 浩司

"Comprehensive School Guidance and Counseling Program" in US Michigan:
Focuses on the Relation to the Role and Training of the School Counselors

MATSUMOTO Koji (Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University)

abstract

This article argues on "Comprehensive School Guidance and Counseling Program (CSGCP)" including career guidance/counseling in America. First, the author states briefly about the history of CSGCP that N.Gysbers contributed the evolution of CSGCP and building the ASCA national model. Then the author analyzes the features of CSGCP (Gysbers's model and ASCA model) and the components about career guidance/counseling activities in CSGCP. Next, discussing the development of CSGCP in the state of Michigan, it reveals that Michigan's CSGCP(MCGCP) stands on the ASCA model and is associated with state's other educational policies.

The author also examines the role and training of school counselors in the state. They are expected to take the central role of practicing MCGCP and trained to be able to work with MCGCP in schools as a educational profession and to perform career/multicultural counseling. Moreover, examining the actual work of a school counselor at a middle school, it shows that school counselors are regarded as a educational profession by themselves and others because they teach students the skills such as career skills in classrooms.

The article concludes with a discussion on implications of CSGCP and school counselors in America. In America, "career education" is not the same as "career guidance." Career guidance in Japan should be reconsidered as systematic and dynamic activities like CSGCP. The school counselors in Japan should be trained as a educational profession with counseling skills.

Keywords: Comprehensive School Guidance and Counseling Program, school counselors, career guidance/counseling, America

日本でキャリア教育が注目されつつあるなか、これまでの進路指導（キャリアガイダンス）研究の蓄積からいかに学ぶかということはこれから追究すべき課題として存在する。また、進路指導は、キャリア教育という新しい概念のもとで、どのように位置づけられるべきかという議論も必要である。

そのために本稿では、アメリカの学校教育において、キャリアガイダンス・カウンセリングを含むものとして展開されている「包括的スクールガイダンス・カウンセリングプログラム（Comprehensive School Guidance and Counseling Program, CSGCP）」を分析する。このプログラムは、個人指導に特化しないガイダンスを含む点でも注目できる。

これまでも、日本でも CSGCP の研究がなされてきた。中野・花屋（1997）は、CSGCP の歴史的展開、概要、全国的な展開の概況について整理しており、CSGCP が州ごとに多様な展開を見せていることを明らかにしている。従って、その展開について、より具体的な事例を基に分析することが必要である。

また、学校におけるガイダンスあるいはカウンセリングを含む CSGCP を論じる上で、その中核的な役割を担う専門職としてのスクールカウンセラーの役割をどう定義するかという問題は切り離すことができない。よって、CSGCP を分析

するなかで、スクールカウンセラーの役割およびその養成についても具体的に検討する必要がある。

そこで、本稿では、ミシガン州における CSGCP の展開および学校での実践に即して、それに含まれる学校でのガイダンス・カウンセリング、とりわけキャリアガイダンス・カウンセリングの展開状況を分析する。また、同州におけるスクールカウンセラー養成の現状についても概観することで、CSGCP のなかでのスクールカウンセラーの役割を明らかにする。そのための主な資料として、2005 年 10 月に筆者が行った現地でのインタビュー調査の結果を用いる。

I. 包括的スクールガイダンス・カウンセリングプログラム (CSGCP)

まず、CSGCP について、その歴史的展開とその概要について述べる。

1. 歴史的展開— Gysbers の功績

Gysbers and Henderson (2000) がその展開を詳細に述べているように、CSGCP は 1960 年初頭に現れ始め、1970 年代に大きな注目を集めた。この時期は、全米でキャリア教育運動が盛んになり、職業的ガイダンス、キャリアガイダンスへの注目も高まった¹⁾。

Norman Gysbers は、当時のキャリア教育運動における理論面での主導者のひとりと目されるが、CSGCP の発展への功績も多大である。

Gysbers は、その共著(Gysbers and Moore 1975)において、「生涯キャリア発達(life career development)」概念を提起し、職業としてのキャリアだけでなく、生涯全体を貫くすべての役割・状況・出来事を包括するものとしてキャリア概念を捉えた。

この「生涯キャリア発達」を促進するためのガイダンスを構築するために、Gysbers が中心となり、ミズーリ大学のプロジェクトが発足した。そのプロジェクトの報告書を改訂したものが、Gysbers and Moore (1981) である。そこに示された CSGCP のモデルは、1980 年代後半にミズーリ州などで、学校におけるガイダンスに関する政策計画のモデルとして取り入れられた。特にミズーリ州における「ミズーリ包括的ガイダンス (Missouri Comprehensive Guidance)」策定においては、Gysbers 本人が深く関わっており、CSGCP は別名「ミズーリ・モデル」と呼ばれることがある。

その後も、Gysbers は、自身の著作や、諮問委員会委員として「ミズーリ包括的ガイダンス」の改訂に携わることを通して、CSGCP の発展に貢献している²⁾。例えば、ミズーリ州のモデルの最新版である Gysbers et al (2002) や Gysbers and Henderson (2000) に、CSGCP における最新の理論的モデルをみることができる。

以上のような Gysbers の功績は、アメリカスクールカウンセラー協会 (American School Counselor Association, ASCA) によるスクールカウンセリングの国家モデル策定にも大きな影響を与えた。ASCA (2003) にそのモデルを見ることができるが、随所に Gysbers の名前が登場している。

以上の展開を踏まえ、本稿では、CSGCP の典型的なモデルとして、Gysbers のものと ASCA のものをともに取り上げ、その基本的な枠組みの特徴を分析する。

2. CSGCP の性格

このように展開してきた CSGCP は、20 世紀初頭に始まる職業ガイダンスあるいはスクールカウンセリングの反省として出てきた側面がある (Gysbers and Moore 1981)。それは、それまでのガイダンスが、特定の分野 (キャリア発達) に限定されていたり、危機への応急的な処置にとどまっていたりしたことへの反省である。

Gysbers and Henderson (2000: 26) は、CSGCP の性格を次の 3 点にまとめている。①ガイダンスが体系化されたものであること、②すべての生徒の発達を支援し、すべての関連する活動・サービスを包括するものであること、③資格を持ったスクールカウンセラーを中核に学校の全教職員が関わるべきものであること。

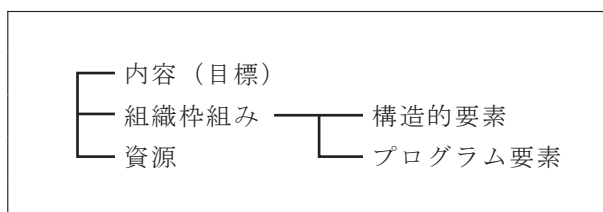
また、ASCA (2003=2004: 18) は、①支援すべき発達の領域の範囲において包括的であること、②予防的な支援に重点をおくこと、③利害関係者との話し合いの中で、プログラムそのものが発達 (発展) していくこと、をその性格として挙げている。

このように、CSGCP は、過去の反省を踏まえ、子どものすべての領域での発達を支援するために、利害関係者との調整の中でガイダンスを体系化し、資格を持ったスクールカウンセラーを中心に、危機への対処に加え、予防的なサービスを展開することをめざしている。

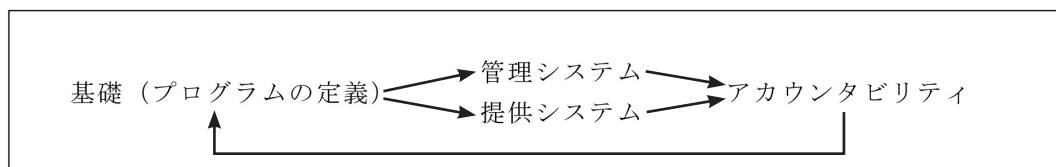
3. CSGCP の基本要素（成分）

以上の性格を踏まえ、いずれのモデルも、その基本となる要素が概念図として示されている。図表1は Gysbers らの概念図（Gysbers and Henderson 2000: 53）を、図表2は ASCA の概念図（ASCA 2003=2004: 28）をそれぞれ簡略化したものである。特に ASCA の概念図では、4つの基本要素が循環をなしていることがわかり、先述したプログラムの発展性という性格がよく表されている。

また、(Gysbers らのモデルでの)「内容（目標）」=（ASCA モデルでの）「基礎」は、いずれも CSGCP が達成すべき目標を定めることを意味しているが、その目標は、CSGCP を採用する州あるいは学区において、その実状に基づいて独自に定めるべきものとされている（Gysbers and Henderson 2000: 52）。その点からも CSGCP の性格が反映されていると言える。



図表1 Gysbers and Henderson による構成概念図



図表2 ASCA による構成概念図

4. CSGCP における活動・サービス

その基本要素のなかで、CSGCP が提供する活動・サービスを示しているのが、「プログラム要素」=「提供システム」の要素である。ただし、「提供システム」の説明は、「プログラム要素」の記述を基本的に踏襲している。その「提供システム」は、「ガイダンスカリキュラム」、「子どもの個別の計画づくり」、「即応的サービス」、「システム・サポート」から構成されている。

その内容は多岐にわたっているが、このような活動は、スクールカウンセラーを中核に担われることになっている。とりわけ注目したいのは、「ガイダンスカリキュラム」の活動に、教科教育を含めた教室での授業が含まれていることである。このことについて、Gysbers and Moore (1981: 61) は、「それぞれの体系（教育とガイダンス—引用者注）において、特定の注意が必要な分離された学習が存在する。同時に、これらの学習は合い重なり、時には教育プログラムがガイダンスプログラムの要素を支援し、時にはガイダンスプログラムが教育プログラムを支援することが必要である」と述べている。この点は、個人の支援を中心としてきた従来のガイダンス概念を転換するものとして注目したい。

5. CSGCP におけるキャリア発達支援

先に、CSGCP の性格として、すべての生徒の、発達のための領域を支援することが挙げられていた。そのなかに、キャリア発達の支援も含まれている。Gysbers のモデルは「生涯キャリア発達」を促進することを念頭においたものであったし、ASCA のモデルも、その達成基準として、学業的発達、キャリア発達、個人的／社会的発達、の3つの発達を柱とする ASCA が定める国家基準を用いている。

ASCA の国家基準で示されているキャリア発達の目標は、端的に「①労働界を自己理解と結びつけて調べ、情報に基づいてキャリアを決めること、②将来のキャリアにおける成功と仕事における満足を達成するための方法を使うこと、③個人的資質と、教育訓練と、労働界との関係についての理解を促進すること、が含まれる」（ASCA 2003=2004: 19）と説明されている。

CSGCP の「提供システム」の中で、このようなキャリア発達を支援することも、スクールカウンセラーの重要な役目であると考えられている。

II. ミシガン州の CSGCP (MCGCP)

前章では CSGCP の歴史的展開とその概要について述べた。先にも述べたように、CSGCP は多くの州・学区で実践されており、その内容は地域の特性を反映した多様なものとなっている。ここでは、ミシガン州を取り上げて、そのモデルの実体化における一例を分析する。

ミシガン州は、アメリカ北東部に位置し、五大湖に隣接している。自動車産業で有名なデトロイトは南東部の端に位置する。州都はランシングで、州の南部の中心に位置する。人口は、2004 年推計で約 1011 万人である。

各所（ソーントン 2004 など）で紹介されているとおり、ミシガン州は、州を挙げてキャリア教育に取り組んでいる先進的な州のひとつである。同州では、1997 年のジョン・イングラー知事の提案を契機に、学校援助法（Public Law 94）および知事令で、幼稚園からハイスクールまでの児童・生徒のキャリア発達を体系的に支援するための「キャリア準備システム（career preparation system）」³⁾ の構築を進めている。この「キャリア準備システム」は、「労働力開発システム」、「労働者促進システム」とあわせて、生涯にわたるキャリア開発システムを形成しているとされている。

1. ミシガン州の CSGCP (MCGCP) の沿革

同州の CSGCP（Michigan Comprehensive Guidance and Counseling Program, MCGCP）は、同州のスクールカウンセラー協会（Michigan School Counselor Association, MSCA）によって作成された。その初版は 1991 年に、次いで 1997 年に改訂版が作成されている。その第 3 版に当たる 2005 年版（MSCA 2005）は、MSCA とミシガン州のキャリア準備当局（Department of Labor and Economic Growth, Office of Career and Technical Preparation）との共同で作成された。

MCGCP は、初版から州教育委員会（State Board of Education）の承認を得ている。ただし、MCGCP を採用するかどうかは、各学区の判断に任されている。採用した学区の実例は後述する。

2. MCGCP の概要

MSCA (2005: 4) の前書きにあるように、MCGCP は、その基本的な枠組みを ASCA (2003) のモデルに依拠している。また、MSCA (2005: 5) では、MCGCP と関連のある 14 の政策文書等の一覧が示されており、州における他の教育政策との整合性への配慮が見られる。例えば、教科ごとの基準を示した「ミシガン・カリキュラム・フレームワーク」⁴⁾ との関連性は、MSCA (2005: J1-4) に対応表として示されている。

また、MCGCP の「基礎」となる目標は、ASCA (2003) が定める国家基準を採用している（MSCA 2005: 17）。すなわち、学業的発達、キャリア発達、個人的／社会的発達、のすべての側面におけるすべての子どもたちの発達を促進することである。

3. MCGCP におけるキャリア発達支援

その目標を達成するために、MCGCP には「提供システム」の 4 つの要素それぞれにおける活動・サービスの概要が示されている。特にキャリア発達に関しては、次のことを実施するとしている（MSCA 2005: 23）。

まず、「ガイダンスカリキュラム」では、葛藤解決、達成のための動機づけ、意志決定・目標設定・計画・問題解決、進学機会についての気づき（awareness）、キャリア機会に関する知識、キャリア・技術訓練に関する知識などの獲得を支援することとされている。また、「子どもの個別の計画づくり」では、キャリアへの気づきと探索、職業訓練に関する知識、仕事に対する積極的な習慣を促進することを行っているとされている。

これらの支援のために、スクールカウンセラーは、授業でのガイダンスカリキュラムの実施、コンサルテーション、評価・検査の実施、助言、個別・小集団カウンセリングなど、さまざまな方法を用いることになっている。

III. ミシガン州におけるスクールカウンセラーの養成

CSGCP (MCGCP) では、スクールカウンセラーが中核的役割を担うことを期待されている。では、具体的にはどのような能力をもつことがスクールカウンセラーに期待されているのだろうか。そのことは、養成のしくみについて分析することで明らかになると考える。

アメリカでは、スクールカウンセラーの資格認定は、州の権限に属しており、その制度は州によって若干異なっている。藤田（1990）によれば、80 年代中盤において、スクールカウンセラーの資格要件として、カウンセリング専攻の修士号に加えて教員資格を挙げる州が大勢であったという。それから 20 年が経過し、その情勢は変化しているようである。以下に、ミシガン州における資格の概要と養成プログラムについて述べる。

1. 州による認定制度

ミシガン州法（改訂学校法，MCL 380.1233）⁵⁾ および州教育省施行規則（R390.1301）⁶⁾ は、スクールカウンセラーの資格要件を次のように定めている。

- a) 教員資格を有する場合、以下の要件を満たし、認証（endorsement）を得ること
 - ・州が認定した大学院修士課程の養成プログラムで18単位以上取得し、修士号を得ること
 - ・上記の養成プログラムから推薦を得ること
- b) 教員資格を有しない場合、以下の要件を全て満たすこと
 - ・州が認定した大学院修士課程の養成プログラムを修了し、修士号を得ること
 - ・州が実施する「教員資格試験（Michigan Test for Teacher Certification, MTTC）」のうち「ガイダンスカウンセラー（Guidance Counselor）」の試験に合格すること⁷⁾
 - ・上記の養成プログラムから推薦を得ること
- c) 他の州における資格または経験がある場合、以下の要件を全て満たすこと
 - ・他の州で7年以内に5年以上のスクールカウンセラーとしての経験があること
 - ・MTTCの同試験に合格すること

なお、この法律は、2000年に改正されたものであり（法案第5740号）⁸⁾、それまでは教員資格が必須要件となっていた。州議会法制局の資料⁹⁾によれば、この改正案は、同州でのスクールカウンセラーの不足および資格新規取得者の減少を背景にして提案されたという。また、その資料によれば、資格の必須要件に教員資格を含めていた州は、同州を含め12州のみであったとされている。

2. 養成プログラム—MSUを例に

当局のホームページ¹⁰⁾によれば、州内の12の大学（大学院）の養成プログラムが、州の認定を受けている。大学ごとに多少の差異があるが、ここでは、ミシガン州立大学（Michigan State University, MSU）の養成プログラムを取り上げ、その特色を分析する。ここで取り上げるのは資格取得のための標準的なプログラムである。このプログラムの課程表は図表3の通りである。

図表3 MSUの養成プログラム課程表

科目名		単位
選択必修科目 (1科目)	カウンセリング・発達における測定と評価	3
	教育研究へのアプローチ	
必修科目	多文化カウンセリングの視点	3
	カウンセリング理論、哲学、倫理	3
	カウンセリング—個人・集団への方法	3
	カウンセリング方略	3
	キャリアカウンセリング	3
	カウンセリングにおける評価	3
	最低50時間の監督された直接面接を含む100時間の実習	6
	最低240時間の直接面接を含む、 40時間×15週＝600時間のインターンシップ	12
選択科目	(3～4単位の任意の科目)	9
合計		48

（出典）MSU（2005a: 9; 2005b）を基に筆者が作成。

この課程表を見ると、スクールカウンセラーには、基本的なカウンセリングの能力に加え、文化的文脈（多文化）への配慮や、キャリアカウンセリングを実施するための能力も求められていることが分かる。また、修了要件48単位のうち、実習・インターンシップが18単位を占め、ほぼ3分の1が実習科目に充てられていることがわかる。

学修案内（MSU 2005a）によれば、このプログラムはMCGCPとの整合性に配慮しているとされており、特に、MCGCPの実施や、学校文化、スクールカウンセラーの任務に関する気づき、知識、技能について養成プログラムのなかで扱うとされている。

このように、MSUの養成プログラムでは、①多文化カウンセリングやキャリアカウンセリングに関する科目が必修科目として含まれていること、②MCGCPとの整合性に配慮されていること、③3分の1が実習科目に充てられていること、などを特色として挙げるができる。

IV. マクドナルドミドルスクールにおける事例

以上、MCGCPの展開やスクールカウンセラーの養成について述べてきた。ここでは、このような背景を踏まえ、MCGCPやスクールカウンセラーの実際について、スクールカウンセラーへのインタビュー調査から明らかにしたい。

この調査は、ミシガン州イーストランシング（East Lansing）市のマクドナルドミドルスクール（Macdonald Middle School, MMS）に勤める McDonald 氏（女性）に対して行った。2005年10月の現地でのインタビューに加え、後日電子メールでも若干の追加質問を行った。以下は、その内容に基づく。

7・8年生が通う MMS は、2005年度の在籍数が563人で、そのうち白人が約64%、黒人が約17%、アジア系も10%程度いる。この学校のスクールカウンセラーは、McDonald 氏のほかに、もう一人非常勤（0.5人分相当）の方がいる。

McDonald 氏は、調査時点でこの学校で22年間スクールカウンセラーとして勤務している。その前は、10年間教員をしていたとのことである。彼女の記憶によれば、州による資格認定は1995年か96年から始まったとのことである。もちろん、それまでも修士号は必要であった。

1. 学区での MCGCP 採用過程

MMS が属するイーストランシング学区の教育委員会は、2002年に先述した州の「キャリア準備システム」を採用する決議案を可決した（ソントン 2004）。それは、①キャリア・パスウェイ、② EDP（Educational Development Plan）、③キャリアに関する文脈的な学習（career contextual learning）、④ MCGCP、の4つの実施を柱とするものであった。①のキャリア・パスウェイとは、特にハイスクール段階の職業教育を職務の類似性で分けた職業群を指し、ミシガン州では、芸術・コミュニケーション、商業・管理・マーケティング、技術・エンジニア／製造業・工業技術、健康関連サービス、人間関係サービス、自然資源・農業科学、の6類型である。②の EDP とは、自分の成績やキャリア選択に関連した探索活動・検査結果などを保存するポートフォリオであり、第8学年からハイスクール卒業まで一貫して使用するものである。③は、アカデミックな教科におけるキャリア学習のことを指している。

この経緯について、McDonald 氏は、1997年に成立した州法案第5233号¹¹⁾の影響を指摘していた。この法案は、郡学区あるいは学区に対して、管轄する各学校の「学校改善計画」の作成を義務づけるものであった。その「学校改善計画」は、児童・生徒のアカデミックな教科における達成を中心に、学校のパフォーマンスを向上させることを主たる目的としている。これは、州による学校の認定（accreditation）を受けるために必要なものとされ、認定を受けられないと、予算の削減あるいは廃校になることがある。このように、MCGCPの展開には、州や学区における学校教育政策も重要な影響を与えていることが示唆される。

学区での MCGCP 採用によって、学区で働くすべてのスクールカウンセラーが、そのための研修を受けたそうである。ただし、その研修は3日間のみであり、多くのことは自分で勉強したと McDonald 氏は話していた。

2. 教育の専門家としてのスクールカウンセラー

スクールカウンセラーは、アメリカでは自他ともに教育の専門家として認知されている。このことは、MSUの養成プログラムの学修案内（MSU 2005a: 6）に、「このプログラムは、有資格の心理専門家（psychologists）を養成するものではない」（下線は原文のまま）と繰り返し記載されていたことから示唆される。また、先に述べたようにその資格要件に教員資格は必須となっていないが、就職の際には教員資格をもっている人がいまだに有利であるということであった。

その主な理由としては、カウンセラーも授業を行うなどして教員としての役割を担うことにあると McDonald 氏は述べていた。このことは、MCGCPにおける「ガイダンスカリキュラム」に相当する活動である。インタビュー時には、McDonald 氏が普段使っている授業のためのコースパケット（教材集）を見せていただいた。かなりの分量があり、持ち運び可能なケースにしまわれていた。また、そのための資料として、研究機関（大学）が出版した指導参考書を用いていた。スクールカウンセラーの専門性に対して、そのようなかたちの支援があることも注目されてよい。

ちなみに、この学校では、スクールカウンセラーが教室で授業をするとき、担任教師も同席しなければならないきまりがあり、そのことによって、スクールカウンセラーが用いる技能を担任教師が学ぶそうである。

3. スクールカウンセラーが行うキャリア発達支援

McDonald 氏の認識では、自分の仕事のうち、キャリア発達支援に割く時間は、全体のおよそ20%ということであった。その他の大部分は、生徒、教員、親の対応に時間を割いているとのことであった。彼女によれば、キャリア発達支援に関しては、MCGCPのほか、先述したミズーリモデルの内容も参考にしているとのことであった。

キャリア発達支援として、MCGCPの「提供システム」における「個別の子どもの計画づくり」に該当する活動のなかに、個々の生徒によるEDP作成の支援がある(MSCA 2005: 30)。EDPはこれまで紙で作られていたが、電子化の動きがあり、MMSでもそれを使用していた。これは、企業によって開発されたもので、生徒は個々のアカウントでウェブサイトアクセスする。それには、職業や高等教育機関の情報検索機能が加えられ、EDPの作成とキャリア探索活動とを統合的に支援することが可能となっている。また、8年生の終わりに、ハイスクールへの進学準備のために、適性検査(CAPS)と興味検査(COPS)を実施することも、このカテゴリーの活動に含まれる。

また、同じく「提供システム」の「ガイダンスカリキュラム」に含まれる活動として、キャリア・パスウェイについて紹介する授業がある。この学区では、キャリア・パスウェイを第8学年修了時までには選択することになっている。そのため、6つのキャリア・パスウェイが、それぞれどのような内容で、どのような高校卒業後の進路(高等教育あるいは就職)につながっていくのかについて生徒に説明する。その他、コミュニケーション能力、問題解決能力、意志決定などに関しても授業を行うことがあるという話であった。

さらに、特別行事として、MMSでは「リアリティ・ストア」という取り組みを実施している。まず、生徒が将来就きたい職業をひとつ選択し、それになりきる。次に、地域で実際に商売を営んでいる人々が、学校に来て自分の「店」を開く。生徒はその職業で得られる賃金を基に、その「店」で買い物をしながら、家計をやりくりする。この取り組みは消費者教育的な要素も含んでいるが、職業と生計との関係を知る上で、とても重要な取り組みであると感じた。もっとも、この取り組みは、基本的にはスクールカウンセラーの担当となっているが、実際には、父母によって準備・運営がなされているということであった。

その他、「4月のキャリア・デイ(Career Day in April)」と呼ばれる、2年に1度、地域の大人を40～50人集めて、全校生徒がキャリアに関する話を聞く機会が設けられている。生徒はそのなかから4人を選んで各30分ずつ話を聞くとのことであった。

V. まとめ

本稿では、ミシガン州のMMSでの実践例に即して、CSGCPに含まれる学校でのガイダンス・カウンセリング、とりわけキャリアガイダンス・カウンセリングの展開状況を分析した。また、同州におけるスクールカウンセラーの養成についても概観することで、CSGCPのなかでのスクールカウンセラーの役割を明らかにした。

理論的モデルとしてのCSGCPは、子どものすべての領域での発達を支援するために、利害関係者との調整の中でガイダンスを体系化し、予防的なサービスを中心に展開するための重要なツールである。そのなかで、資格を持ったスクールカウンセラーは、その実施の中核を担い、授業(教科教育)を含めたガイダンスカリキュラム、子どもの個別の計画づくり、即応的サービス、システム・サポートを実施する。

ミシガン州では、GysbersらやASCAのモデルを基に、独自のプログラム(MCGCP)を展開している。そのなかで、スクールカウンセラーは、MCGCPと連携したプログラムによって養成され、基本的なカウンセリングの技能に加え、多文化カウンセリングやキャリアカウンセリングに関する技能を身に付ける。

また、イストラランシング学区あるいはMMSでは、州の「キャリア準備システム」参加を通して、その一部としてMCGCPを採用していた。そこには、アカデミックな教科での生徒の達成を重視する学校教育政策が影響を与えていた。

そこでのスクールカウンセラーは、自他ともに教育の専門家として認知されており、個人への対応の他、授業を行うことを通して、キャリア発達を含めた生徒の発達を支援している。

以上の知見は、日米比較の視点から、日本におけるキャリア教育あるいは進路指導を考える上で大きな示唆を有する。以下に、3点にわたって述べる。

まず、第1に、少なくともアメリカでは、キャリア教育は進路指導の代替概念ではないということである。CSGCPのなかにキャリアガイダンスは吸収されつつあるが、それでもキャリアガイダンスと呼んでよい活動・サービスは存在している。また、そのキャリアガイダンスとキャリア教育とは同義語ではない。1970年代のアメリカでのキャリア教育運動を連邦当局で強力に推進したHoyt(2005)は、キャリア教育の一要素に職業教育があると明確に述べているし、Johnson(2002)が紹介するように、文脈的な教授・学習(contextual teaching & learning)のなかで、アカデミックな教科教育におけるキャリア学習が展開されている。この点を考慮した上で、日本でのキャリア教育を進路指導との関連でどのように定義するかという議論が必要である。

第2に、日本における進路指導のあり方に対してである。その構成要素は、これまで、①自己理解の促進、②進路情報の収集、③啓発的経験の提供、④進路相談の実施、⑤就職・進学指導、⑥卒業後の追指導、の6つとされてきた。これらは、

主に個人指導を念頭においたものであると考えることができるが、CSGCPはキャリア発達に関するガイダンス・カウンセリングとして、教室における集団指導も含めている点で注目できる。また、CSGCPは、子どもたちの全体的な発達を支援するための体系的かつダイナミックなモデルを提示している点で、日本の進路指導の再構築を考える上で参考になると思われる。

第3に、スクールカウンセラー養成のあり方についてである。日本では、スクールカウンセラーの資格要件は明確に決められていないが、多くの場合、臨床心理士か学校心理士の資格が要求されている。これらの専門職は、心理学の専門家であって、教育の専門家とは一般的に考えられていない。その一方で、アメリカの事例が示唆しているのは、スクールカウンセラーは、教育の専門家として養成され、その職務に従事しており、学校という組織のなかで、個別指導だけでなく、集団への教育活動も一部分であるが担っているということである。このことも、日本のスクールカウンセラーのあり方について考える上で、重要な視点を提供していると思われる。

〈注〉

- 1) その結果として、あるいは、キャリア教育運動のひとつの成果として、1984年、連邦法であるカール・D・パーキンス職業教育法 (Carl D. Parkins Vocational Education Act, PL 98-524) に「包括的キャリアガイダンスプログラム」実施への援助と、このプログラムをスクールカウンセラーが担うことが明文化されることになった (藤田 1991)。
- 2) 特に、「ミズーリ包括的ガイダンス」の概略とそれに関する州諮問委員会に関しては、ミズーリ州初等中等教育省キャリア教育局のホームページを参照。http://dese.mo.gov/divcareered/guide_programs.htm。(注に掲げるインターネット資料は、2005年12月末日現在のアクセスに基づく。以下同じ。)
- 3) このシステムの概要は、Michigan Department of Career Development (2001) あるいは http://www.michigan.gov/mdcd/0,1607,7-122-1680_2629_2722--,00.html 参照。
- 4) 「ミシガン・カリキュラム・フレームワーク」と名付けられた文書には、国語、数学、科学、社会に関する基準が掲載されているだけであるが、その後、その他の教科やキャリア発達などの領域に関する基準も定められたことから、それらを一括してこの名称で表している。その文書は、http://www.michigan.gov/documents/MichiganCurriculumFramework_8172_7.pdf 参照。
- 5) <http://www.legislature.mi.gov/> から検索・閲覧ができる。
- 6) http://www.michigan.gov/mde/1,1607,7-140-5234_5683_14796-33245--,00.html。
- 7) この試験の実施主体が発行する受験案内 (National Evaluation Systems 2005) によれば、この試験には基礎技能試験 (読み、書き、計算) および個々の専門領域の試験 (ここではガイダンスカウンセラーの試験) があり、いずれにも合格することが必要である。ほぼすべての試験は、多肢選択方式であり、一定の基準を満たした者すべてが合格となる。ガイダンスカウンセラーの試験では、「人間の発達と学習」、「評定と評価」、「カウンセリングとグループガイダンス」、「進路 (進学・キャリア) 計画」、「ガイダンスプログラムと専門的知識」の5つの分野からほぼ均等に出題されることになっている。
- 8) <http://archive.legislature.mi.gov/documents/1999-2000/billenrolled/house/pdf/2000-HNB-5740.pdf>。
- 9) <http://archive.legislature.mi.gov/documents/1999-2000/billanalysis/house/pdf/1999-HLA-5740-A.pdf>。
- 10) https://mdoe.state.mi.us/proprep/ProgramInfo.asp?Program_ID=45。
- 11) <http://archive.legislature.mi.gov/documents/1997-1998/billenrolled/house/pdf/1997-HNB-5233.pdf>。

〈引用文献〉

- ASCA, 2003, *The ASCA National Model: A Framework for School Counseling Programs*, Alexandria: ASCA. (= 2004, 中野良顕訳『スクール・カウンセリングの国家モデル—米国の能力開発型プログラムの枠組み』学文社。)
- 藤田晃之, 1990, 「アメリカ合衆国におけるハイスクールカウンセラー制度の現状と課題—『キャリア開発教育』の視点から—」『教育学研究集録』14: 37-47。
- , 1991, 「1980年代アメリカにおける『キャリア開発教育』の特質—キャリアエデュケーションの問題点との関連で—」『比較教育学研究』17: 5-17。
- Gysbers, N.C. and Henderson, P., 2000, *Developing and managing your school guidance program (3rd ed.)* Alexandria: American Counseling Association.
- Gysbers, N.C., Kosteczek-Bunch, L., Magnuson, C.S., Starr, M.F., 2002, *Missouri comprehensive guidance program: A manual*

- for program development, implementation, evaluation, and enhancement*, Columbia, Missouri: The Curators of The University of Missouri.
- Gysbers, N.C. and Moore, E.J., 1975, "Beyond career development — life career development," *Personnel and Guidance Journal*, 53(9): 647-52.
- , 1981, *Improving guidance programs*, Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- Hoty, K.B., 2005, *Career Education: History and Future*, Tulsa, Okla.: National Career Development Association. (=2005, 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・下村英雄訳『キャリア教育—歴史と未来』雇用問題研究会.)
- Johnson, E.B., 2002, *Contextual Teaching and Learning: What It Is and Why It's Here to Stay*, Thousand Oaks, California: Corwin Press.
- 中野良顕・花屋哲郎, 1997, 「米国総合的の学校ガイダンス&カウンセリングプログラムの分析と日本の生徒指導の再構築」『進路指導研究』18(1): 27-38.
- National Evaluation Systems, 2005, *Michigan Test for Teacher Certification study guide: 51 Guidance Counselor*, http://www.mttc.nesinc.com/MI_viewSG_opener.asp, (2005.12.28).
- Michigan Department of Career Development, 2001, *Career preparation system overview*, Lansing, MI: Author.
- MSU, Department of Counseling, Educational Psychology and Special Education, M.A. Counseling Program Faculty and Staff, 2005a, *Program Handbook, Master of Arts in Counseling, Fall 2005*, <http://ed-web3.educ.msu.edu/macounsel/handbook.htm>, (2005.12.28).
- , 2005b, *Information & Application*, <http://ed-web2.educ.msu.edu/cepadmit/Cou1703.doc>, (2005.12.28).
- MSCA (collaborated with the Michigan Department of Labor and Economic Growth, Office of Career and Technical Preparation), 2005, *the Michigan comprehensive guidance and counseling program: K-12 guide for program development, implementation and accountability*, http://www.michigan.gov/documents/Section_1_115876_7.doc, (2005.11.25).
- ソートン・カズコ (松本浩司訳), 2004, 「アメリカ合衆国のキャリア準備教育の実際—ミシガン州の総合高校を例に—」, 寺田盛紀編『キャリア形成・就職メカニズムの国際比較—日独米中の学校から職業への移行過程—』晃洋書房, 196-217.